

平成30年度第1回

湧別町総合教育会議議事録

平成30年12月14日

開会16時00分 閉会17時15分

湧別町

平成30年度第1回湧別町総合教育会議会議録

- 《出席者》 町長 石田 昭廣
教育長 阿部 勉、教育委員 岩佐 雅弘、教育委員 井上 久恵
教育委員 森谷 和洋、教育委員 喜多 友美
- 《欠席者》 なし
- 《出席職員》 教育総務課長 尾山 弘、社会教育課 星 義孝、図書館長 田中 仁、教育総務課参事 吉竹 司、教育総務課長補佐 細川 徳之、教育総務課主幹 大口 貢、教育総務課学校教育係長 宍戸 和幸、
- 《傍聴人》 なし
- 《協議案件》 報告第1号 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進について
協議第1号 湧別町立小中義務教育学校の将来の姿について
協議第2号 湧別高等学校の存続について

尾山 課 長 | ただ今より、平成30年度第1回湧別町総合教育会議を開催させていただきます。はじめに石田町長よりご挨拶をお願いいたします。

石田 町 長 | 本日、平成30年度の第1回湧別町総合教育会議の開催にあたり教育委員の皆様にはお忙しい中、ご出席を賜り大変ありがとうございます。
今年も残すところわずかになりました。今年1年委員の皆様には教育行政を含め大変お世話になりましたこと心から厚くお礼申し上げます。本日の総合教育会議議案に沿って進めさせていただきますので、よろしく申し上げます。

尾山 課 長 | 続きまして、教育長よりご挨拶いただきます。

阿部 教育長 | 教育委員会を代表し一言ご挨拶申し上げます。
日頃、石田町長には湧別町の教育に関しまして特段のご理解とご支援を頂いていることに対しまして、教育委員会を代表し心から感謝申し上げます。
本年度は、4月に芭露学園が開校し学園の方からも良好な滑り出しを切ったと伺っております。このことが湧別町のモデル校としてモデル的な教育スタイルとして、これから湧別町が進んで行くものかと考えております。また、各学校においてのコミュニティ・スクールの設置につきましても後ほど担当の方から説明申し上げますが、来年4月全ての学校においてコミュニティ・スクールが設置される予定であります。このことが地域とともにある学校づくりにつながっていくもの

阿部教育長 　と理解しております。そういうことも含めまして本日の総合教育会議
3件ほどの議案が提出されておりますが、教育委員会としての考え方も
お話ししながら町長との意見交換を行いたいと思いますので、どうぞ
よろしくお願い申し上げます。

尾山課長 　続きますして協議に入っていく訳ですが、本日の会議の主旨をご説明
申し上げます。

　本日の総合教育会議ですが、法律に基づいて行われる会議でございます。
法律につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律でござい
まして、この中ではいろいろ定められております。まず一つ目に「町長は
大綱を定める」との条文があります。教育施策の総合的な大綱を定める
ということになっております。本町では資料赤ナンバー4番「湧別町教育、
学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を定めてございま
す。この大綱については、平成29年から平成33年までとなっておりま
して、総合計画の内容とイコールとなっております。総合計画の内容を抜
粋した形の中で法律に基づく大綱ということで位置付けて運用してござ
います。さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中で、二
つ目に「総合教育会議を設置することができる」ということになって
ございます。まさに本日の会議でございます。

　この会議というのは、大綱に基づく様々な施策について協議する会
議となっております。総合教育会議のメンバーは地方公共団体の長、
いわゆる町長です。さらに、教育委員会となっておりますので、この2
つの構成員をもって大綱をどう進めていくか、教育全般について話し
合いを持とうということが法律で決まっております。

　本日、用意した議案でございますが、法律の中で毎年これを協議し
ろといったものはございませんので、特にタイムリーなもの3つの議
案をご提案しますのでご協議いただきたいと思います。

石田町長 　これより、平成30年度第1回湧別町総合教育会議協議事項を進め
て参ります。

　議事日程ですが、皆さまのお手元に配布してあります議案により、
会議を進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

　報告第1号 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進に
ついて、事務局の説明をお願いいたします。

大口主幹 　報告第1号 コミュニティ・スクールの推進について、ご説明を申
し上げます。

　コミュニティ・スクールの設置につきましては、地方教育行政の組
織及び運営に関する法律第47条の6に基づく学校運営協議会制度

大口主幹 | を活用し、開かれた学校づくりを推進するため、湧別町学校運営協議会規則第3条に規定に基づきまして次のように平成30年度におきまして学校運営協議会を設置した学校を報告させていただきます。

平成30年度に学校運営協議会を設置した学校につきましては、湧別町立湧別小学校・湧別中学校でありまして、こちら2校につきましては共同設置となります。2つめ町立芭露学園、3つめ町立上湧別中学校でございます。別冊赤ナンバー資料1にて湧別町コミュニティ・スクールの導入までの経過についてご説明させていただきます。

(以下、別冊資料に基づき説明)

学校運営協議会未設置である町内2校の上湧別小学校、中湧別小学校につきましては、平成31年4月設置に向けた準備を進めてございますので、教育委員の皆さまには協議が整い次第設置に向けてご審議をお願いしたく考えますのでよろしくお願い申し上げます。

石田町長 | ただ今、事務局より報告第1号につきましてご説明させていただきました。報告第1号について委員の皆さまから説明に対しましてご質問等ございませんか。今までの経過についての報告となりましたが、よろしいでしょうか。ご質問ないでしょうか。

(「ありません」の声あり)

ご質問等無いようですので、以上で報告第1号を終わります。

続いて、協議第1号 湧別町立小・中・義務教育学校の将来の姿について、事務局の説明をお願いいたします。

尾山課長 | 本町の将来の小学校、中学校さらに芭露学園である義務教育学校がありますので、町が担うべき義務教育の学校をどうすべきなのかについて、まずは現状どのような学校配置になっているのか、或いは学校の老朽度、さらに将来を考えるに当たり児童生徒がどう推移していくかについて資料を作成しましたので、共通認識を持っていただくため議案といたしました。この会議では何時どここの学校と統合するとかといった議論を行なうものではありません。現状認識を行なうための協議ということで議案といたしました。

まず、赤ナンバー資料1の4ページをご覧ください。

(以下、別冊資料に基づき説明)

続いて、将来像を考える上で、赤ナンバー資料2を作成しましたのでご覧ください。

この資料は、湧別町の児童生徒がどのように変わっていくのかとい

う数値を表した資料であります。これは、国の研究機関が発表した人口推計によりますと、年少人口はどんどん減っていくことになるのですが、その中15歳未満の年少者人口を計算しますと、1年間に1.5%ずつ減っていくというデータが出ており、これを元に作成した資料であります。

2つめの二重丸に記載してありますが、複式学級については学年平均人数が小学校で8人以下（1学年8人）、中学校で4人以下になると複式になるということが予想されます。

3つめの二重丸は、複数クラス学年平均人数が41人以上になれば2クラスにということを備考欄に記載しております。それでは、現在の児童生徒と将来の予想児童生徒数の表の説明をいたします。

（以下、別冊資料に基づき説明）

将来どのように考えていくかにつきましては、様々な案が発想として出てまいります。何種類かご説明いたします。

芭露学園で進めております義務教育学校につきましては今年1年かけて検証したいと考えておりますが、この考え方が一つあります。この義務教育9年間という義務教育学校は教育効果が高まるといういい面ばかりが見えてきておりますが、いい感触を得ております。

将来を考える際に、まず湧別小学校が非常に古くなっておりますので、湧別小学校をどうするか考えなければならない訳ですが、ひとつの発想としては、コミュニティ・スクールも共同で設置しているのですが、義務教育学校で湧別中学校と湧別小学校を作るという発想が浮かぶのかなと思います。

次に二つ目の考え方ですが、富美と開盛小学校につきましては、学校配置計画のプランにありますとおり、人数が少なくてもコミュニティ・スクールを設置することで33年度までは維持しましょうという方針を出しましたので、開盛も富美も計画どおり運営しておりますが、この次はどうなるのかと考えますと、複式のままでいくというよりは大きな人数で統合していく方がよいのではないかという考え方も出てくるものと思われまます。富美と開盛とどこの学校を統合するかということも次の考え方としては出てくると思われまます。仮に上小に統合したとなれば資料A欄の3校計になりますし、旧上湧別地区全部を足しますと中小、上小、開盛、富美も足したならばB欄に示したとおり複式とならずに30年後も運営できることとなります。

考えなければならないファクターは色々ありますが、富美と開盛をどこの学校と統合させるか、上小、中小いずれかと統合させるのか、あるいは先程ご説明申し上げた義務教育学校、9年間の教育で考えますと上湧別中学校を統合してもよいのではとの発想もあります。これらのことも考えながら将来的には本町のより良い教育を考えていか

- 尾山課長 なければならぬという状況でございます。
以上、説明とさせていただきます。数字的な質問や他にこのようなことも考えられるといった確認事項があればお願いいたします。
- 石田町長 協議第1号湧別町立小中義務教育学校の将来の姿について事務局より説明がありました。説明した中で数字的な部分や基本的な部分でも構いませんご質問、ご意見ございませんか。
前段、担当より申し上げましたとおり、この場でどうするのかということを決める会議ではございませんので、この会議の中で委員皆さんの思いも含めてご意見を聞かせていただければ。
非常にデリケートな問題が含まれてくる、学校どうしの統合とかになればどちらかの学校が地域からなくなるわけですから、非常にデリケートな部分が多々ありますが、将来的に見た時には理解をさせていただきながら進めていかなければならない時代が間違いなくやって来るなという気がしております。学校に関しては地域の思いが非常に強い訳ですから、その問題については地域とじっくり話をしながら進めていかなければならないと思っておりますが、しかし、地域のお話だけで物事を進めることにもなりません。非常に困難でありハードルが高い部分があります。私は基本的には地域の方々の考えはわかりますが、学校のことでありますので、主役である子どもたちにとってどうゆう姿が一番いいのか、そこを基準に地域の方々も考えていただきたいと思っております。学校が地域からなくなるという思いもありますが、それが前面に出てしまうと主役である子どもたちが置き去りになってしまうことになる。基本としては子どもたちにとってどれがよい選択肢なのか我々も含めて周りがしっかりと考えてあげる必要があると思っております。
- 井上委員 学校配置計画の策定時から参画させていただいておりますが、私の思っているところでは、計画の策定時に行った富美地区の説明会が一番つらく感じました。年配の方々の意見が強く、今、通学している子どもたちの若い保護者の意見も私の仕事柄聞こえてきている。気持ちとしては上湧別小学校に統合したいという思いはある。しかし、今言えば富美にいられなくなるような圧力が掛かって言えないという話を聞いていて、その後数年経ち、コミュニティ・スクールになり、上小の保護者からも上小だけではなく、富美、開盛ではなく中小とも一緒にという声も今いる保護者から聞こえはじめています。私の意見ですが義務教育学校として先程課長が説明した4校プラス上中というのが、富美小、開盛小、上小、中小そして上中というスタイルが私の中では好ましいかなと感じました。

石田町長 私も、今年4月から芭露学園が義務教育学校として始まったのですが、最終的にはどういう形で湧別町の義務教育である小学校、中学校がどういう形で行くかまだまだ先の話ですが、先の見通した選択肢としては、私としてはまだ芭露学園は一回りしていないわけですが、様子を見ながら、我が町の最終的な小中学校の在り方として芭露学園はひとつのモデルになるかと思っております。芭露学園自体が一回りし軌道に乗った結果を踏まえていかなければいけないと考えております。数字的に見ても示したとおり、子どもの数も含め大変厳しい。間違いなく将来的に来るわけですから子どもの教育がどのような形がよいのか我々が真剣に考えていかなければならないと思っております。

選択肢の一つとして、私は義務教育学校という学校の設置の仕方は子どもたちのためにも良いなと思っております。

森谷委員 私としては、幼いころ志撫子小学校の廃校で、解体された芭露小学校の1期生として卒業しましたので、小さい学校を経験して今に至るわけですが、あの記憶を辿った子どもの気持ちとしては、志撫子小学校時代同級生が4人で全校生徒が13人でありました。その時経験したことは、先生に指摘されて手を上げたことはありませんでした。学校では私の先輩が1人しかおりませんでしたので、5人一列に並び授業を受けました。

学校を視察すると今の子どもたちはいろいろなことで発言する機会がありますが、当時はあまりありませんでした。これらのことを経験して芭露小学校で同級生20数名となり、卒業してその後上湧別中学校に行きそこで感じたことは、こんなに自分の友だち、同級生同じ年代の子がいること、そして自分に合う友だちとのグループが出来たことが、今でも仲間意識があったりする。小さな学校では先生の顔を覚えていたり、近所の人を覚えていたりすることはよいことですが、逆に子どもが成長していく上で、ある程度的人数の中で自分の気持ちを発揮していくことはとても重要なことと思います。

当時、父がPTA会長を担っていたこともあり、地域の人から電話があり町を無くすのかなど相当あった。そのような中で父も子どもたちのことを考えて芭露小学校に統合することを決めた経緯があります。その頃の気持が今でもありますので、小さな学校の良い所もたくさん経験しましたし、とても良いことですが、もう一つそのようなことも小さいうちに経験することが重要と思います。

石田町長 ありがとうございます。
その他、ございませんか。

阿部教育長

先ほど、町長から湧別町の最終的な方向性というものが見えてきたのかなと感じましたが、現実問題として、これから関わってくるものは湧別小学校の老朽化問題であり、これが大きな問題として子どもたちの教育環境の整備に取り組まなければならない部分、その時に合わせてどのようにしなければならないか。上湧別地区ということになれば、学校数も多いので中湧別小学校の部分もあるので、このことについては6月の定例議会の一般質問で考え方は示させていただきました。そういう意味では、町長言われるような方向で行くなど、また行かなければならないと改めて感じたところでもあります。

その中でひとつ必要となる場所は先程報告のありましたCS（コミュニティ・スクールの略）の関係ですが、来年、全ての学校に於いて設置がなされる場所でもあります。既に活動しているCSもありますが、全てが揃った段階で湧別町の運営協議会連合会的な組織を立ち上げて情報交換や情報共有を行なうことが必要になってくる。このことが目指す姿に近づくものかと思います。先日開催された湧別小中学校合同の運営協議会の顛末を拝見しましたが、教育委員会の関わりがあまりないとの意見がありました。意見として必要などである。次回開催の際には教育委員会がどのような立場で参加するかは別にしても積極的に顔を出していきたいと感じたところでもあります。他の地域においても同じであります。このCSをうまく活用して、町長が言われるようにデリケートな部分であり神経を使わなければならない部分ですがこのような手法をうまく活用していきたい。

石田町長

いろいろご意見をいただいたところではありますが、すぐ結論が出るものではありません。委員さんの立場としていろいろお話を聞かせていただきました。これから進めるにあたり委員さんとお話をしながら、当然教育委員会の中で最終的には進めていくことになると思いますが、私の将来的な進む方向性というのもまだ公にということではありませんが、私の考えとしてはそういう方向性でいだろうと、これから10年後20年後の話ではなくなってくると思います。これらを含めて委員さんも頭の中に入れていただきたいと思います。

この件に関しましては以上でよろしいでしょうか。

（「よろしいです」の声あり）

以上、協議第1号を閉じさせていただきます。

続いて、協議第2号、湧別高等学校の存続について議題といたします。事務局より説明をお願いします。

細川 補佐

赤ナンバー3の資料をご覧ください。

湧別高校の存続対策についてであります。今回、まちづくり懇談会におきまして、各地域におきまして説明させていただいている資料と同じものとなっておりますので、簡単にご説明をさせていただきます。

1枚目には、1番、歴史的背景について記載をしております。昭和28年に地域の子どもは地域で育てるという理念から2町の熱意から組合立の学校として設立されております。昭和31年に北海道に移管されまして、平成17年から連携型中高一貫教育をスタートさせております。現在まで卒業生は8,000名を超えておりまして、入学者につきましても残念ながら昭和40年代をピークに減少傾向でありまして、平成30年度は38名で1学級となっております。

次に高校存続の重要性であります。少子化の影響によりまして高校も定員割れとなっております。自分が進学したい高校に進学し易い状況にあるという事実がございます。湧別高校におきましても本町で主に部活動面で魅力を感じているという理由から、本町の中学生は湧別高校以外に進学する生徒が多いという結果となっております。

このような状況でございますが、重要なのは生徒が進学先を選択できる状態にしておくことでございますので、生徒の通学の負担であるとか、保護者の経済的負担が少ない地元にある安心して通える湧別高校の存在は欠かせないものと考えております。今後も入学者数が減少していけば1学年という編成が恒常化してしまいまして、教職員数も減少し今日ある充実した高等教育は望めなくなります。減少が続きますと統廃合となる再編整備の対象となりますので、本町から高校がなくなるということを覚悟しなければなりません。当然生徒数の減少や高校がなくなる事態になりますと、教職員は町外に転出しますし、高校がないとなると子育て世代も高等教育を求め転出するという現象が起こりますので、当然人口減少とともに購買力も低下し、最終的には持続的な地域社会の形成もできなくなります。町としてはこのような状況を回避したいということから、湧別高校の存続対策を実施しているところであります。

2ページをお開きください。

(担当よりグラフに基づき資料説明)

3ページをお開きください。これからの入学者数の見込についてであります。

(担当よりグラフに基づき資料説明)

資料により説明申し上げましたように、町内からの進学率を高めることと町外からの一定の進学者を確保できることが重要となりますので、今後も湧別高校存続対策事業を実施して魅力ある高校として位

細川補佐 置付けていかななくてはならないと考えます。参考までに4・5ページには現在行っております高校存続対策の内容を記載しておりますのでご覧いただければと思います。

石田町長 協議第2号の湧別高等学校の存続について、ただ今事務局の方より説明がございました。

この問題については、いま、町内を回りまちづくり懇談会において町からのテーマについてご意見をいただく形を取り、そのテーマとして本年度、湧別高校の存続についてということで回らせていただいております。懇談会の席上、それぞれの地区で私もお話をさせていただいておりますが、まず基本的に我々がテーマにあげて町費を支出しながら湧別高校という話なのですが、町民の皆さまに理解していただきたいことは、わが町にとって湧別高校が必要であるということです。それがあって町費も使えることであります。いま湧別町にとって湧別高校の存在というものを町民の皆さまにまずはわかっていたきたいのがテーマにあげたひとつの理由でもあります。いままで回った自治会において、この存続対策に対して話をしていく中では、なんでそんなという意見は全く出ておりません。全町回った中で町費をこれだけ使ってきたことに対して、湧別高校も生徒の数がこれだけ減ってなくなるということは仕方ないのではないのか、なぜここまでしてという話が出るかなと思っておりましたが、そのようなことは全く無く、湧別高校に振り向いてくれる方策をしっかりとくれというご意見をいただくことがほとんどでありました。私が言うように湧別町にとって湧別高校の存在は非常に大きなものがあります。なんとか湧別高校を維持したい、子どもの数は減ってきているが、まだまだ2間口を確保するだけの絶対数は町内にいるわけでありまして。町内の子どもたちの絶対数がいなくなってしまうのであれば考えなくてはならないが、まだまだこの先10年先を見ても町内には湧別高校2間口を守るだけの絶対数はおりますので、尚更対策を講じることで存続できるものと思っております。どのようにすれば生徒たちが湧別高校に振り向いてくれるのか、これから煮詰めていかなければならないと思っております。

何か湧別高校に対してのご意見やご提言はありませんか。

岩佐委員 現実問題として厳しいものはあります。懇談会の話聞いていても感じました。

懇談会の意見の中には少しでも湧別町に住む若い人を増やした方が結果として数字が上がるのではないかという意見もありました。しかし、それだけでは継続することは難しいと思っておりますが、やはり対策

岩佐委員 を継続的に講じなくてはならない。次の方法をとというのではなく、先頭を引っ張る町としての姿勢を日々発信することで理解する人も増えてくるのではないかと、言われたからやるのではなく、今のようにいろいろ対策を行っておりますから、これらをアピールしながら継続していただくことが一番かなと思います。

石田町長 湧別高校の生徒達も真剣に危機感を持ちながら取り組んでいただけるようになり、本当に一生懸命に取り組んでおります。なんとかその頑張りに報いるよう、母校である湧別高校は守ってあげると力強く言っていきたいと思っております。

実態としては醜いものがある。遠軽高校との生徒の取り合いとなっております。このような状態で終わってしまうのはいかがなものかと思うが、これが現実であります。生徒自らが湧別高校に振り返ってもらえるような状況になればと、遠軽高校の生徒を引っ張ってこいとかいうことがなくなると思います。湧別高校自体に子供たちが振り向いてくれる何かができると思います。

井上委員 私の子どもも湧別高校に進学したのですが、中高一貫の取組の中で息子が一番最初の時に湧別高校に進学したのですが、今日、町長、教育長が職場体験のことで湧別高校に行かれたという話を聞き、昔を思い出し、中学校の時代も第1回目の職場体験を経験しておりますが、湧別高校での職場体験においてみのり幼稚園の職場体験に参加したことで保育士の道を自らの職業として選んだところであります。

私も中学校の職場体験の講師として何度か訪問したことがありますが、そこをもう少し充実させて、親も参加できるようなことも加えて、中高一貫の取組として湧別高校に進学することで更なるグレードアップを図り、いろいろな話も聞けて、他の高校にない取組を行えば違ってくるのではないのでしょうか。この職場体験は大変よい取組だと思っております。

石田町長 湧別高校の持ち味はその部分だと思っております。いわゆるキャリア教育を含めて。自らの職業の選択ですから、公務員を目指す、役場の職員を目指すという生徒には、私は毎年、その年の採用人数は退職者によって違いますが、私は基本的に私が現職で在職している間は、高校卒の役場の職員を求めるときには基本的に私は湧別高校生が採用条件と考えております。このことは高校にも話をしながらやっているところでもあります。しかし、最近役場職員も人気がない。公務員試験を受けないようである。基本的には湧別高校の卒業生を優先的に採用するよう考えております。学校にも伝えながら、学校としても生徒に伝えていただき、生徒も後輩を含めた中学校に伝えながら湧

石 田 町 長 別高校の魅力をまだまだ伝えていかなければと思います。
今の湧別高校の在校生は母校である湧別高校は最高であると思っております。生徒会による湧別高校の魅力についてアンケートを行ったところたくさんの意見が出てきている。アンケートを拝見したところ逆にこれだけ良いところがある湧別高校になぜ入学する生徒が少ないと思うかと尋ねたことがあります。本人は現在湧別高校に通学している当事者であるわけですから、この生徒たちが素晴らしいと思っております。自分達の高校が素晴らしいということを外にアピールをしてもらわなければという話をさせていただいた。本人たちがこれだけ思っているわけですからこれを伝えていただく、これらの手法が今まで足りなかったのかなと感じておりますのでしっかりやっけていかなければと思っております。

森 谷 委 員 まちづくり懇談会に参加して気がついたことは、懇談会に参加した保護者のOBの方々は、事あるごとに湧別高校についての話題がでるようになってきたと感じております。懇談会のテーマとして出していただけで年配の方々が会話として出してくれることが多くなった。懇談会で説明していただくことで興味を持つ方がいる。あのような形で何気なく説明していただくことは面白く興味を持った。この度のまちづくり懇談会はとても良い感触を感じました。

石 田 町 長 本当に難しい問題であります。今、1年、3年生が1クラスであります。2年生は2クラスあります。来年4月に入学するクラスがまた1クラスをなれば募集する間口が1間口になってしまうという状況下にあります。来年4月は正念場であると思っております。募集間口が1間口となるとどのように頑張ってもどうにもなりません。
学校の統合と合わせ大きな問題であります。委員さんを含めいろいろな知恵を拝借することとなりますのでよろしくお願いしたいと思います。

以上よろしいでしょうか。
協議第2号につきましても終わらせていただきました。
その他、事務局より何かありませんか。

(「ありません」の声あり)

石 田 町 長 なければ、本日この会議に付議した議案すべて終了したことになります。何かまとめて委員さんからお話があれば、承りたいと思っております。

石 田 町 長 | なければ本日の総合教育会議を閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、平成30年度第1回湧別町総合教育会議これをもって閉じさせていただきます。本日はご出席ありがとうございました。